

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年12月5日(金)

みんなの居場所

徒然

1ヶ月、師走とはよく言ったもので、先生方の姿を見ていると、よく走っている。世の中も何かせわしなく動きが早送りのようになっている。そのような気がする。多くの店舗にクリスマスの装飾がなされ、気温は低いのだが心は少し温かい。忙しいのに何か温かく感じる季節が12月だ。私は思う。今年1年の出来事を振り返りつつ、来年こそはもっと良い年になるように、願いや期待をもって時の移ろいを感じているからである。

【続】教えることについて

教師の職業は少々特殊です。大学まで教育を受ける側としていたかと思うと、教員採用試験に合格すれば今度は先生として教育する側になる訳ですから、世間知らずの状態です。私も経験があります。大学を卒業してすぐ、臨時採用の講師として龍田小学校に勤務した時のこと。甘さが残る私は、夏休みに平気で遅刻してしまっていました。私は大事に考えなかつたので、後で学年主任に呼びとめられました。教職の現場に限らず、ルーキーにはこのようなことがあると思います。しかし、ルーキーだからといって許されないことがあるのも事実ですね。

私の教える子に医師がいます。このうちの1人といふ話をしたことがあります。この子は熊本市内の病院の呼吸器内科に勤務し、現場で人と向き合うことに対して「厳しさ」を学んでいます。

澤田先生、医師の仕事って教師と一緒に、責任が重いんですね。最近師が人の事をたくさん話していることがあって、手帳が難しい事をたくさん話している。その事もたくさん内科治療に望みを託す訳です。そこで、私の様な普通科の先生にお任せします。』と仰るんです。私、恐怖を感じました。医師としての責任って何なんだろう。私は僅かに口をきいていました。

「やっと分かったが、患者さんは命をお任せするんだ。患者さんの人生に責任を持つという覚悟で向き合わないかん。俺は、教職人生、失敗や後悔の連続だから、その時最善を思われる選択をして、精いっぱいやってきた。『人事を尽くして天命を待つ』という感じだ。今でも教える達のアフターサービスは欠かしてないぞ。お前も覚えてな。お陰で楽しい教師生活だけだ。』

医師は患者さんの辛さに向き合い、治療によって回復という結果を出します。しかし、教師の仕事は結果が、10年先や20年先にか検証できません。しかも数値での検証が難しいのです。教師が求められるものは点数だけではないのですから。

医師も教師も、目の前の人間に責任を持たねばならないことは言うまでもありません。教師は他の職業と比較すると、少々先の将来を見越した仕事をしないといけないのです。医師はそこまで私にはできません。どうすればいいのですか?』と聞いています。教師もそうだと私は思います。新米教師だろがベテラン教師だろが、目の前の課題に正対し、出来ることを徹底的に探り、徹底的に遂行することが、プロとしての責務だと私は考えています。人生の質(ＱＯＬ)を高めるために、また、後悔しないように「初心」と「平常心」を忘れないようにしていきたいです。

シリーズ「自分を語る」＃57

前回は指のけがの話でした。続きまして、今回は病気です。平成14年度、持ち上げのワークスの担任をさせて頂いた。その年も順調に行事を実施し、充実した時間が過ぎていました。

ある日のことです。充実している時、子やもの成長を感じている時、教師はあまりストレスや負担感を感じないものです。私もそのような状態だったのでないかと、今になって気づかれています。精神的なストレスは感じていなかったのですが、肉体的なストレスが無意識のうちに私の体を蝕んでいったようなのです。

1月の終わりの頃だったと思います。夜中の2時頃、私は強烈な吐き気に襲われ目を覚ました。急にトイレに駆け込み、吐いてしまいました。(この辺りはあまりきれいな作文ができませんので「承知」させていただきます。その日に食べたものは全て吐き出したと思います。吐きながら「今日何か悪いもの食べたか?」「吐き止めてみよ、中々思いつきません。強いて挙げるならば、風邪予防に他の職員も食べた「金柑の甘露煮」でした。しかし、他の職員はそんな反応がありませんでした。原因としては考えられません。そんなことを考えているうちに、また吐き気がしてきました。トイレを何度も往復する時間が3時間ほど続きました。1月とは言葉で夜中は治るんだといて、体が冷えてきました。吐き気が治まらないので、朝まで眠れませんでした。朝、辺りが明るくなった頃、嘔吐物の色を見てびっくりしました。何と、濃い緑色だったのです。その日は朝からお休みを頂いて病院へ行くのですが、受診の仕方普通ではありませんでした。あまりに吐き気がひどいので、受け付け開始前に電話をして、裏口から入れてもらった受診でした。熊本市新町にある胃腸科です。中々すぐに診察をしてくださいました。吐き気止めで栄養食を仰っていました。枕元に洗面器にティッシュが置かれ、たまに「オエッ」とやりながら、先方がいろいろのものを待ちました。その間も吐き気は治まらず、たまに緑色のものが出れば、唾液を吐きの繰り返しでした。あまりに痛みと吐き気が辛いので、ベッド上で体を丸めて目を閉じ、ただひたすら耐えるだけでした。

さて、先生がいろいろ質問開始です。先生の質問に答えるのも「苦力」で「フーン」と唸りながら答えるような状態でした。昨日食べた物、ストレス、これまでの事…。自己診断としては「胃潰瘍かな?」とは思っていたものの、その頃の仕事は非常に充実していたし、精神的なストレスは感じていませんでしたので、何か悪い病気のかなと不安な気持ちもありました。そこでお医者様がおっしゃいました。「今日は何も食べていませんね。まずは胃の内視鏡検査を受けて頂きます。」「看護師さんが「眠くなる注射をしますね。」「と書いて、点滴の脇からある注射をされました。それと同時に「大きく深呼吸をしてください。」「と言われるままにしている。あつという間に眠ってしまいました。それから時間後「目が覚め、診察室に呼ばれ説明を受けました。さういふまま寝ていたので、ボーッとした状態のまま、説明を受けました。その内容は、……。 (つづく)